



鹿児島大学など県内の8大学・短大・高専では、COC+事業として、キャリア教育などの人材育成を中心に、地元定着に向けた様々な取組を行っています。今回号から、各校の特徴的な取組について紹介します。

鹿児島高専の地方創生への取組

【鹿児島工業高等専門学校】

「地方創生特別講義」 ～自治体職員とOBが語る

本校では、地方公共団体職員による地方創生特別講義を昨年度から実施しているが、今年度から職員による講義とともに地元企業に就職したOB・OGの事例発表を行うスタイルに更新した。

平成29年12月6日、今年度初めての特別講義を機械工学科3年と電気電子工学科1年の学生を対象に実施した。本校と連携協定を締結している日置市役所総務企画部職員小園氏による約40分の講義「地方創生～『人口減少について考えてみよう』」の後、JX喜入石油基地(株)の津之浦氏、南国殖産(株)の東郷氏によるOB事例発表を行った。



日置市小園氏



JX喜入石油基地(株)津之浦氏



南国殖産(株)東郷氏

講義後、学生からは、ほとんど知らなかった地方創生や地元の企業について興味を覚えたという感想のほか、先輩の仕事内容、就職活動や学生生活で大切なこと等の話を聞いて、今後の学生生活や将来について真剣に考えたいとの意見や地元就職についての前向きな意見が聞かれた。

残り3学科についても、今年度中に霧島・日置両市の職員による特別講義とOB・OGの事例発表を実施予定である。

「地方創生推進会議」 ～若者の地元定着促進に向けて

12月12日、平成29年度第3回「COC+高専」地方創生推進会議を本校で開催した。

本会議は、COC+事業目標である新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、実行する本校独自の組織として設置されたもので、年4回開催している。本校・霧島市・日置市・両市商工団体・企業団体の代表から成り、地元企業インターンシップの推進、地元企業合同説明会の推進、地域教育特別講座の推進、奨学金による地元就職の推進、地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進に取り組み、目標達成を目指している。

当日は、COC+代表校である鹿児島大学と本校の事業進捗状況、霧島市と日置市の取組みについての報告に引き続き、地方創生特別講義とOB・OGの事例発表の進め方、求人・就職アクセスシステム提案事項、霧島市・日置市主催の大学等企業合同研究会の実施について審議を行った。

今後、3月に開催予定の第4回会議で今年度事業に対する自己評価を行った後、評価会議において受けた評価を次年度の事業見直しや改善に繋げていきたい。



会議の様子

課題解決型インターンシップの本格実施に向けて 【鹿児島大学】 プレ「地域キャリア・インターンシップ」公開報告会を開催

鹿児島大学では、「地域マインド」や「地域就業力」を備え、地域の発展に寄与できる中核的人材を育成するため、「かごしまキャリア教育プログラム」を提供し、その一環として平成30年度から課題解決型の「地域キャリア・インターンシップ」を実施することとしている。平成29年度はその試行版として、プレ「地域キャリア・インターンシップ」を実施し、地元企業及び自治体の受入協力を得て、有志の学生11名が挑戦した。9月29日（金）に本学学習交流プラザで公開報告会を開催し、地元企業、自治体、学生、大学関係者等65人の参加を得て情報共有を図った。

○実施概要

はじめに清原理事より開会挨拶があり、次に井上COC+推進部門長より「地域キャリア・インターンシップ」の概要説明があった。続いて、プレ「地域キャリア・インターンシップ」実施報告を5人の学生（法文学部1年 真辺綾音さん、法文学部1年 横峯昂輔さん、農学部1年 窪田瑛水さん、農学部1年 久保悠さん、農学部1年 野間夏乃さん）が行った。その後、受入先からの講評として、(株)山形屋及び鹿児島市観光農業公園の担当者様からお言葉をいただいた。休憩の後、5グループに分かれ参加者間で意見交換をした。最後に井上部門長の挨拶によって閉会した。

○参加者の声

質問紙調査を実施したところ、34人から回答を得た。本会への参加理由として、最も多かったのは、「鹿児島大学の地域人材育成への取組を知るため」（44%）であり、続いて「関係者等にすすめられたから」（24%）、「学生の受入に興味がある」（22%）だった。満足度は、「非常に満足」（31%）、「やや満足」（45%）だった。地域キャリア・インターンシップ受入意向については、「検討したい」（50%）が最も多く、「積極的に検討したい」（36%）、「内容次第」（9%）が続いた。本インターンシップ実施における企業側の課題について問うたところ、「受入体制」、「課題探し」などが挙げられた。

○地域キャリア・インターンシップ実施に向けて

本インターンシップを通じて、地元企業の魅力を理解し、地元就業を目指す学生が増えれば、学生のみならず地元企業、ひいては地域の活性化につながるものと期待される。課題解決型インターンシップが学生、企業、地域にとって有意義なものとなるよう、大学側としても努力していく。企業及び自治体のみならずさらなるご協力をお願いしたい。

○謝辞

プレ「地域キャリア・インターンシップ」にご協力いただきました、(株)山形屋、(株)牛一、(株)プロゴワス、鹿児島市、(公財)鹿児島市公園公社、(順不同)にお礼申し上げます。



説明を聞く参加者



意見交換会



公開報告会チラシ